

高田屋の身代

昔日

石州濱田竹島一件（攝州兵庫浦高田屋又

藏、天保四年八月より、米拾九億八千石餘、但唐船よて積み送り候由、有金八百二十七萬八千兩餘、土藏三百七拾箇所、内百三十箇所唐物入置、居宅間口九拾七間、奥行二百七十一間、有米三拾九億壹萬石餘、此米四斗俵より直ほし、九十九億壹萬俵餘、

右朝鮮國竹島へ通路いとし候由、

八月十五日井上河内守様御吟味有し之よし、申八月廿九日御掛り大久保加賀守様へ左之通り御届書差出し、

私家來大谷作兵衛、村井荻右衛門儀、當六月十日、石川日向守家來へ、島崎梅五郎儀、去三日酒井修理大夫家來へ、吟味中預け相成候段、於井上河内守宅へ申渡有し之候處、一通り申口相分候し付、預け差免候旨、昨夜於河内守宅へ家來之者へ申渡於同人宅へ日向守、修理大夫家來より、私家來之者へ引渡受取申候、此段御届申上候以上 八月廿九日 松平周防守、)

續燕石

十種

異聞雜稿（攝州兵庫高田屋金兵衛、同人松前出張共家

庫米穀金銀龍腦麝香の類關處の略記也とて、人の見せざるハ、その多寡幾倍幾萬幾千など廣大いふべうもあらず、こハ何ものう、そらことを唱へ出して、世の人を欺く也、)